

平成 27 年度 第 3 回石狩市健康づくり推進協議会

■日 時 平成 28 年 1 月 7 日（木） 18 時 30 分～20 時 15 分

■場 所 石狩市役所 5 階 第 1 委員会室

■出席者 下表のとおり

委 員			職 員（事務局）	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	阿部 包	○	保健福祉部健康推進担当部長	我妻 信彦
副会長	大林 啓二	○	保健福祉部保健推進課長	武田 渉
委員	中川 賀嗣	○	保健福祉部スポーツ健康課長	村谷 栄治
委員	我妻 浩治	×	保健福祉部国民健康保険課長	宮野 透
委員	天野 真樹	○	保健福祉部保健推進課主査	木澤 愛彦
委員	江頭 裕二	○	保健福祉部保健推進課主査	廣瀬 芳江
委員	廣島 孝	○	保健福祉部保健推進課主査	竹瀬 麻紀
委員	清水祐美子	×	保健福祉部保健推進課主査	鈴木 啓之
委員	清野 和彦	○	保健福祉部国民健康保険課主査	青山 昌弘
委員	飯田 鉄蔵	○		
委員	中川 文人	○		
委員	熊谷 美香	○		
委員	花田美保子	×		
委員	百井 宏己	○		
委員	三国 義達	○		

■傍聴者 1 名

1. 開 会

事務局（木澤主査）

皆様こんばんは。

本日は年始早々ご多忙の折、お集まりいただき御礼を申し上げます。

まだ到着されていない委員の方が 1 名いらっしゃるのですが、定刻を少し過ぎましたので、ただいまより「平成 27 年度 第 3 回石狩市健康づくり推進協議会」を開催いたします。

会長に議事進行をゆだねるまで、私、保健推進課の木澤が進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局（木澤主査）

まずは、本日の出欠状況について報告させていただきます。

委員定数 15 名のうち、花田委員がまだ見えられておりませんので、現在 12 名の委員の出席をいただいております。この時点で出席委員が過半数に達しておりますので、本協議会設置要綱第 6 条

第 1 項の規定により、本協議会は成立となることを報告いたします。

なお、あらかじめ欠席の報告をいただいている委員は「我妻委員」、「清水委員」、の 2 名の方となっております。

事務局（木澤主査）

次に、配付資料の確認をいたします。机の上に置かせていただいております、こちらの「協議会次第」、「座席表」、「健康意識に関する市民アンケート結果」、計画素案の抜粋物となりますが、「第 5 章ーみんなで達成する健康の目標値」のほか、事前に送付いたしました「石狩市健康づくり計画（第二次）素案」及び「平成 27 年度 第 2 回石狩市健康づくり推進協議会における各委員意見・要望等一覧」となっております。

もし不足や落丁、事前送付資料のお忘れ等がありましたら、事務局にお知らせくださいますようお願いいたします。

なお、以降の事務局員からの説明等につきましては、大変恐縮ですが座って進めさせていただきます。

2. 審 議

事務局（木澤主査）

これより、審議に入りたいと存じますが、以降の進行につきましては今までの慣例に習い、阿部会長をお願いいたします。

それでは会長、よろしくお願いいたします。

阿部会長

皆様、明けましておめでとうございます。

本日は新年早々、ご多忙の折、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今回の議題は、次第のとおり「石狩市健康づくり計画（第二次）の策定について」の審議となっております。

先ずは「健康意識に関する市民アンケート結果」の報告を受け、次に「石狩市健康づくり計画（第二次）素案について」、皆様にご審議いただくこととなります。

アンケートにつきましては、前回の協議会で皆様から了をいただいた内容を基に実施した結果を、事務局より報告していただきます。

計画の素案につきましては、前回の協議会で事務局より案が示されましたが、その案に対し、各委員よりご意見・ご要望等を多数いただきました。

事務局にてその内容を検討し、反映した計画案が改めて今回、提示されております。

それぞれに関連する内容となっておりますので、一括して説明を行っていただき、その後、皆様からのご質問やご意見を承りたいと思います。

委員長としてですが、皆様もご存知のとおり、このあとスケジュールが 3 月までに今回の素案が提案される形になっていて、パブリックコメントも実施しますので、できれば今回の協議会で

成案としたいと思っています。今日、皆様のお手元にある素案には、前回の協議会における、ご意見ご要望ご指摘等が反映された形となっておりますので、ご確認していただければと思います。
それでは、事務局より説明をお願いします。

事務局説明

竹瀬主査

保健推進課 竹瀬です。

私から、計画策定の為に実施した「健康意識に関するアンケート結果」について、ご報告いたします。

今日配付いたしました「健康意識に関するアンケート結果について」という資料をご覧ください。

はじめに、1. 調査の概要についてお伝えします。

対象は、20 歳から 69 歳の男女各 1,000 人、計 2,000 人に実施。回収数 567 通、回収率 28.4%でした。

回答者の概要ですが、性別は男性が 241 人で 42.5%、女性が 325 人で 57.5%、年齢は 60 歳代が一番多く 32.1%、次いで 50 歳代と 40 歳代はどちらも約 20%を占め、回答の約 7 割が 40 歳以上の回答となっています。

住まいは旧石狩地区が 85%、職業は「派遣・パート等」と「会社員」で全体の 5 割、主婦の回答が多くありました。健康保険加入状況は、市の国民健康保険加入者が 3 割でした。

次に、2. 計画の施策に関わる内容についてお伝えします。

まず、施策の基本方向のひとつである、「健康づくりインセンティブ」についてお聞きしました。

アンケートでは、インセンティブを特典制度という表現でお聞きしています。

アンケート結果は、全体の約 44%が特典制度で健康づくりの意欲が高まると回答しており、年代別内訳が下の表にありますが、若い 20 歳代、30 歳代の半分以上が関心を示していることがわかりました。

回答で「わからない」が一番多く 52%だったことについて、今回のアンケートでは具体的な特典について、内容を記載していなかったこともあり「わからない」が一番多かったと考えています。

次に、健康推進ミッションに関する内容についてお伝えします。

2 ページ目をお開きください。

「健康推進ミッション（4. 喫煙）」の項目の具体的取り組みを行うにあたり、お聞きしました。

「タバコをやめたいか」と喫煙者にお聞きしたところ、全体の喫煙者 140 人中 71 人、50.7%が「やめたい」と回答しています。

年代別内訳が下の表にありますが、20 歳代 30 歳代は約 4 割が「やめたい」と回答し、年代が高くなるごとに割合が高くなり、60 歳代は約 6 割が「やめたい」と回答しています。

次に、下の表ですが「タバコをやめたい」と回答した 71 人に禁煙外来の助成は禁煙に取り組む

きっかけになるかをお聞きしたところ、46 人で 64.8%の方が「きっかけになる」と回答しています。

年代別内訳が下の表にありますが、20 歳代の 8 割、30 歳代の 9 割が「きっかけになる」と回答しており、関心を示していることがわかりました。その他の年代は 6 割前後が「きっかけになる」と回答しています。

次に 3 ページをお開きください。

「健康ミッション（6. 歯・口腔の健康）」の項目の具体的取り組みを行うに当たり、お聞きしました。

1 番目に、過去 1 年間の歯科検診についてお聞きしました。

「検診を受けた」と「治療と検診両方でかかった」を合わせると 261 人、46%の方が検診を受けていることがわかりました。

年代別内訳が下の表にありますが、年代が上がるごとに受診率が高くなり、60 歳代では半数以上が受診している状況です。

次の表ですが、歯科検診を受ける条件について、自己負担も含めお聞きしました。

「無料であれば受ける」と 284 人、約半数の方が回答しており、下の表の年代別内訳からは、検診を受けていない若い世代が関心を示していることがわかりました。

また、「一部自己負担があっても受ける」と回答した方が 14.6%おり、具体的な金額をについては、500 円から 5,000 円までの回答があり、1,000 円と 2,000 円の回答が一番多くありました。

「受けない」と回答した方は 8.6%であったことから、助成を含めた支援は、歯科検診を受けるきっかけになると考えられます。

次に、「みんなで達成する健康目標値について」お伝えします。

今日お手元に「第 5 章—みんなで達成する健康の目標値」という健康づくり計画の差替え資料がございます。12 月末に送付した計画の第 5 章にあります、各分野の平成 27 年現状の数字ですが、アンケート締め切り日の 12 月 10 日の集計結果を載せていますが、その後約 100 通のアンケートが届いたことから、内容の精度を高めるため、12 月 16 日に集計した数字に差し替えさせていただきます。

次に、アンケートの資料 4 ページをお開きください。合わせて、差し替え資料の「第 5 章—みんなで達成する健康の目標値」も合わせてご覧ください。

アンケート資料の網掛けで一部色が変わっている箇所が、「みんなで達成する健康の目標値」にあります、平成 27 年の現状に入る内容になっています。

上段からお伝えしますが、1. 栄養・食生活について「主菜・副菜がそろった食事回数」ですが、1 日 2 回以上食べると回答した方が、76.2%でした。

次に、「減塩」を意識して実行していると回答した方は、38.6%でした。

次に、3. 休養・心の健康についてですが、「すっきり眠れていない」方の割合は 14.6%。

次の、「(1 年間に 2 週間以上) 気持ちが落ち込んだり、不安がある」方の割合は 21.2%でした。

次に、4. 喫煙についてですが、COPD を言葉と意味も知っている方は 15.2%でした。

次に、5. 飲酒についてです。5 ページをお開きください。

一週間の飲酒回数ですが、週 3 日以上飲酒する方が 144 人、25.4%でした。週 3 日以上飲酒する方に、再度詳しく週の飲酒日数と飲酒量をお聞きし、生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている方を、男女別に表しました。

男性は 22.8%、女性は 12.9%が生活習慣病のリスクを高める飲酒をしているとわかり、国の現状である男性 15.3%、女性 7.5%と比較しても、かなり高い割合だとわかりました。

次に、週 3 日以上飲酒している方に、今後のお酒の飲み方についての気持ちをお聞きしたところ「この先も今と同じ量を飲み続けたい」と回答した方が一番多い回答でした。

次に、適度な飲酒量についてお聞きしたところ、「知っている」と回答した方は 19.2%でしたが、適度な飲酒量の「1 合」と回答した方は 16.6%でした。

次に、6 ページをお開きください。

次に、7. 健康診査・がん検診について「今年または前年度に健診を受けた」方は、62.8%でした。

次に、COPD を意味も含めて知っている人の割合は 15.2%でした。知らない人は約半数いました。

次に、7 ページ 8 ページについて、4. そのほかのアンケート結果についてですが、今後の支援に活かすために、参考としてお聞きした内容ですので、後ほどご覧ください。

最後に、アンケートの自由意見に記載された部分でございますが、今計画と同じような視点で、メッセージ性を持った、施策展開に関する意見や健康づくりインセンティブを施策に盛り込むことの重要性、自発的な取り組みだけではなく、みんなで取り組むこと、市全体的な取り組みをすることが大切であるという意見があり、今回の施策の基本的方向と同様な考え方の意見が寄せられています。

私からは以上です。

阿部会長

ありがとうございました。

続いてよろしくお願いします。

廣瀬主査

こんばんは。保健推進課の廣瀬です。

私から、前回からの変更点についてご説明いたします。

変更点の説明の前に 3 箇所訂正がございますので、お願いいたします。

最初に、7 ページの本文 2 行目「生活の質の向上と社会機能の維持・向上」を「社会生活機能」に変更願います。

次に、18 ページ本文の 5 行目、自殺率についてですが、自殺率は、人口 10 万人に対する割合の数値ですので、単位の%は削除願います。全道・全国の自殺率の単位の%も同様に削除願います。

次に、22 ページ本文の下から 3 行目、括弧内を（*H24 年の国民栄養調査による喫煙率 全国平均 19.3%、北海道 27.6%）に修正願います。

それでは、変更点のご説明に移ります。会長から説明がありましたが、皆様に事前にお送りした計画書案は、前回の協議会でいただいたご意見や質問に加えて、協議会終了後にメール等でいただいたご意見も合わせて検討し、修正や追加をしております。また、いただいた意見以外にもわかりやすいように表現を訂正・削除・追加をしている部分もあります。

まず、全体的なところでは、段ずれや行間、文字のフォントなど、整えて見やすくしています。また、7 ページ第 3 章ですが、健康推進ミッションの横に括弧で領域名を入れたのと、ミッションと具体的な取り組みが連動していることをわかりやすくするために、具体的な取り組みの前にミッション番号を入れました。ミッション 1：具体的取り組みのように訂正いたしました。

それから、健康づくりムーブメントやスマートペアレントなどのカタカナの言葉については、説明の注釈を付けました。また、言葉の表現で「しましょう」や「を進めます」など、表現を変更したほうが良いとご指摘いただいた部分を訂正しています。

さらに、先にアンケート調査の結果についてご説明しましたが、前回アンケート結果を踏まえて記載することになっていた箇所について、アンケート結果を反映した内容といたしました。

それでは、1 ページをご覧ください。8 行目の「このような危機的状況」についてですが、前回、協議会で質問を受けてお答えした箇所ですが「このような生活の質の低下や健康寿命の短縮につながる危機的状況」とし危機的状況とは、どういうことかを明確にしました。

次に、最後から 3 行目の「前計画の最終評価から浮き彫りになった課題」について、市民がやりたくなるような取り組みとメッセージ性のある情報発信の必要性、お互いに健康を支え合う地域社会の重要性の 2 つが課題であると捉えているので、その点を追加しました。

また、前回は計画の目的を「すべての市民が、心豊かに、いきいきした姿で生活を送れるよう、健康づくりを推進していきます」として 1 ページの最後に記述していましたが、これは、最終的に目指す姿であり、基本理念と合致していることから、計画の目的と 2 ページの基本理念を整理して「やらなければならない健康づくりから、やりたくなる健康づくり、楽しい健康づくりへ転換する」ことをスローガンとし、「共に助け合い健やかで心豊かに生活できるまちを目指すことを基本理念とします。」と決めました。

次に、2 ページの 2. 基本的な方向ですが、前回は「基本方針」としていましたが、3 ページの健康づくり計画の体系図の文言と合わせ、「基本的な方向」としました。また、2. 基本的な方向の（4）生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底の 1 行目の「発症予防」について、前回「1 次予防」となっていましたが、意味が同じであることから「発症予防」に統一しました。

次に、3 ページの健康づくり計画（第 2 次）の体系図をご覧ください。前回、この体系図の領域区分と 3 章の健康ミッションの順序が違っていたのですが、体系図の順番を入れ替えてわかりやすくしました。さらに、生活習慣病の分野を⑦としました。また COPD については、序章やたばこ対策で触れていましたが、政策の位置づけが不明確であったため、生活習慣病対策として体系図にも加えました。

さらに、⑧「個人の取り組みでは解決できない地域社会の健康づくり」は、領域は設けていま

したが、この領域に対応する健康ミッションがありませんでしたので、41 ページから 43 ページに「8. 地域社会の健康づくり」のミッションを追加しています。後ほどまたご説明いたします。

それから、体系図の基本的な方向（5 つの柱）について、1「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」は、2「社会生活を営むために必要な機能の維持・向上」から 5「健康を支え、守るための社会環境の整備」を実現することで成しえるものなので、基本理念に掲げるべきであるというご意見をいただきましたが、先ほど基本理念のところでお伝えした通り、基本理念は、「共に助け合い健やかで心豊かに生活できるまちを目指すこと」としております。この体系図については、国の概念と考え方を同じくしていますが、2 から 5 に取り組むことで、生活の質の向上と社会環境の質が向上して、健康寿命の延伸と健康格差の縮小につながり、それらすべてが土台となって、目指す姿である「共に助け合い健やかで心豊かに生活できるまち」が実現することから 1 から 5 は全て基本理念の土台となるものとご理解願います。

4 ページをご覧ください。4. 計画の期間と進行管理および評価とし、進行管理の方法を具体的にしました。各施策の進捗状況については、毎年度、石狩市健康づくり推進協議会へ報告するなどし、次年度以降の健康づくりに反映することを追加しています。

5 ページをご覧ください。2. 協働の姿の 4 行目“ミッション（使命）”についてご意見がありましたが、市民、子育て・教育機関、職場（企業・団体）、商業施設・飲食店、地域、関係団体、行政それぞれが健康づくり目標を推進する道しるべとし、それぞれの使命であることを明確にしました。

6 ページをご覧ください。一番下の囲みにあります、石狩健康づくり応援団。のロゴについては、さけ太郎・さけ子を用いたロゴにしました。以降記載ある、石狩健康づくり応援団。についても、このロゴを用いています。

それでは、7 ページ第 3 章に移ります。1. 栄養・食生活の領域です。4 行目の「加工食品の多用や外食の利用などが増え」について、前回のご指摘を踏まえ、私たちもその通りだと思い「外食やコンビニ弁当」という表現を変えて、コンビニ弁当という表現は、記載しないことにしました。

8 ページをご覧ください。四角で囲っている「●ミッション 1：具体的取り組み」を前回は「具体的施策」としていましたが、施策という言葉は一般的にはあまり使わないというご意見をいただき「具体的取り組み」に変更しました。この方がずっと馴染みやすくなったと思っております。

また、具体的取り組みについて、行政が行う取り組みと、市民が行う取り組みに分けて書いた方が良いというご意見をいただきましたが、具体的取り組みについては、メッセージ性を持った作戦を提案し、行政が旗振りを行います、その取り組みに関わるのは、市民や関係団体など双方が取り組むものであることから、行政が行うもの、市民が行うものなどの区別は行わないものとししました。

また、はじめにもご説明しましたが「しましょう」という取り組みを推奨するような表現がありわかりにくい表現の原因となっていたことから、「します」という表現に統一しました。

次に、14 ページをご覧ください。

<歩くための工夫>の 4 つ目、車や自転車を使わずについて、前回、自転車も運動の手段としては良いのではないかとご意見をいただき、検討することとしていましたが、訂正し自転車を

削除しております。

次に、15 ページの●ミッション 2：具体的取り組みですが、①に前回お示した案ではどこでもラジオ体操作戦の説明が不足していたため、わかりやすいように追記しています。

18 ページをご覧ください。

前回、「おせっかいはあったかい」を石狩スローガンにタイトルとして掲げていましたが、ここだけスローガンを掲げるのは違和感があるために削除しました。心の疲れがもたらす危機の最後に『石狩市では「おせっかいはあったかい」をスローガンとして、こころの健康を保てる社会を目指します。』はそのまま残しています。また、19 ページの●ミッション 2 の①おせっかいはあったかい作戦は、前回、うつ・自殺予防のため、相談しやすい体制作りを進めるとともに、スローガン「おせっかいはあったかい」の浸透を図ります。としていたのを「おせっかいはあったかい」をスローガンにし、うつ・自殺予防のため相談しやすい体制作りを進めますと相談体制の充実の推進が明確となるように改めています。

23 ページをご覧ください。●ミッション 1 の①「禁煙治療費の一部助成」について、禁煙治療の保険適用が一部認められていること、禁煙している市民の税金を投入するという観点などから助成を見送るべきというご意見をいただきましたが、保険適用にならない喫煙指数が 200 以下の若年者も対象として、禁煙を希望する市民を支援したいと考えています。先ほどアンケート結果のご説明をしましたが、禁煙助成は、若い世代の方ほど禁煙のきっかけになると回答する割合が高いことから、若い人に有効な施策と考えます。

また、禁煙対策は、受動喫煙防止対策の観点やがん・COPD の早期対応にもつながる事から、いずれにしても、禁煙の動機付けの支援は必要な施策であるため、現段階ではこのままの記述とさせていただきますと考えています。

次に、前回の協議会でご指摘をいただいていた③「まずは市役所作戦」について、新たな取り組みを盛り込みました。市職員にたばこの害や禁煙に関する情報発信を行い、段階的に希望がある企業等にも情報提供を拡大することを追加しました。

次に、31 ページをご覧ください。

一番下の表を追加しました。これは、12 月に行ったアンケート結果によるものです。前回載せていた歯周病検診の結果は、今回のアンケートによって新たな情報を載せたので上書きしました。

次に、33 ページの●ミッション 2③「歯のコンクール作戦」の内容について「市内歯科医療機関から歯周病治療の成果のあった市民を推薦してもらい、表彰する」という内容について、いただいたご意見をもとに「80 歳で 20 本以上の歯を保っているなど、健康な歯を持つ人を表彰することで、正しいセルフケアの重要性や歯と体の健康の関係について周知・啓発します。」という内容に変更しました。

次に、36 ページをご覧ください。

前回は、タイトルを「健康管理・生活習慣病予防」としていましたが、生活習慣病が具体的にわかるように「生活習慣病ーがん・循環器・糖尿病・COPD」としました。また「悪しき生活習慣がもたらす危機」について、国民健康保険加入者の現状や 12 月に実施したアンケート結果を交えて現状がより伝わるように書き換えました。

次に、38 ページをご覧ください。COPD の追加については、体系図のところでもお話ししましたが、序章やたばこ対策で触れていたものの、政策の位置づけが不明確であり、また、生活習慣病予防としての理解を深めていただく意味でも、位置づけを明確にしました。COPD は長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症の疾患で、基本的にはたばこ対策と同様の対策となりますが、認知度の向上が課題となっており、国の指標と合わせ、みんなで達成する健康の目標値としても掲げていることから、ミッション 4 として追加しました。

次に、41 ページをご覧ください。地域社会の健康づくりの領域に対応するミッションがないのはわかりにくいというご指摘をいただき、ミッションを追加しました。前回の計画では「石狩健康づくり応援団。」や「ごほうび☆作戦」を地域社会の健康づくりの取り組みとしていましたが、見せ方を変え、「絆や人のつながりを大切にしよう！」をミッションとして、3 つの具体的な取り組みをあげました。

今日、差し替えでお渡ししています、みんなで達成する健康の目標値をご覧ください。

アンケート調査後設定としていたところをアンケート結果に基づき現状値と目標値を設定しました。目標値については、国の指標があるものについては、国の目標に合わせて設定しています。この差し替える前の 49 ページをご覧ください。7. 健康診査・がん検診の表の一番上、健康診査受診率の向上ですが、この健康診査は、市国保加入者が受ける特定健康診査以外にその他保険の特定健診や職場の人間ドック、市の 39 健診などの健康診査の受診を含め、アンケート調査で把握した数値を指標としています。特定健診・特定保健指導の目標値は、特定健康診査等実施計画で定めていることから、この計画との整合性を図り、取り進めます。私からは以上です。

阿部会長

お疲れ様でした。ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明を踏まえまして、皆様からのご質問・ご意見等をいただきたいと思います。皆様、いかがでしょうか。

飯田委員

修正案に対する意見が 1 点、文言整理の関係で 1 点、新たに追加された文章に対しての質問 1 点の 3 点あります。

その前に、アンケート調査の結果を教えてくださいましたが、男女各 1,000 人ということで、各年齢層から 5 つの年齢区分で分かれていますが、それぞれ 1 ページ目の性別年齢割合のところに割合が入っていて、回答数を 100 とみた時の割合だと思いますが、20 歳から 29 歳、30 歳から 39 歳など区分ごとに、アンケート票を渡した人数は各 200 人ずつ統一されていますか。

竹瀬主査

はい

飯田委員

単純に回答数が少なければ、このような計画に関心ない事や協力的でない事がわかり、これからどこをターゲットに絞って計画を進めればいいのか、年齢ごとの回答率がわかれば、この年齢層はあまり協力的でない事や関心がない事がわかりますので、そういった意味で回答率がわかればと思いましたので、すべて各 200 人ずつですね。わかりました。

まず、修正案に対する意見ですが、7 ページ目のコンビニ弁当の関係で、私が前回発言した時に、コンビニ弁当も工夫しているところもあると発言しましたが、コンビニ弁当は工夫しているから削除し、外食と加工食品は問題ないと発言した訳ではなく、このフレーズのままだと、外食と加工食品の使用そのものが生活習慣病の原因と記載しているようなイメージになるので、例えば、栄養バランスを考えていない外食や加工食品の利用と記載すれば問題はないと思いますが、外食と加工食品の利用が多いと記載すると外食産業からすると提供している物そのものが生活習慣病に関係しているようなイメージを受けてしまう。

ミッションも朝食抜きについては、朝食をきちんと食べましょうなどや無理なダイエットには栄養バランスを考えましょうなどとミッションをあげていますが、この文章のままにすると外食は控えましょうや加工食品の使用は少なくしましょうといったミッションが裏に入ってきてしまうので、栄養バランスを考えないような利用の仕方というようなものを付けないと栄養バランスの方のミッションにならないと感じます。

それで今日、会長の方から最後の会議でパブリックコメントに入っていきたいということでしたので、案として 3 つほどありますので、使えるものがあれば使用していただき使えなければ使用しなくても結構です。

1 つ目は、加工食品と外食というのがうまく伝わらなかったり誤解を生む解釈をしてしまうのであれば、削除して朝食抜きや無理なダイエットなどとしてフレーズを削除する方法もあります。

2 つ目は、外食と加工食品という言葉を残すのであれば、栄養バランスを考えない外食や加工食品の利用が増えると塩分や脂肪の取りすぎとし、次の文章につなげていく方法もあります。

3 つ目は、家庭料理であればなんでもいいわけではなく、カップラーメンや肉ばかりではよくないので、栄養バランスを考えない食生活を続けるのが問題だというように、外食や加工食品というフレーズを抜いて塩分やエネルギーとつなげる方法があります。

文章の統一性のところは、単純な話しですが「さけ太郎・さけ子」や「おせっかいは、あったかい」のところに中点が入ったり、句読点がついたり、ページによってはバラバラなので統一してもらえればと思います。

質問ですが、41 ページに新たに「地域社会の健康づくり」が追加されているところですが、全体を通してすごく見やすくなったと感じました。そこで、3 段落目の 9 行目「石狩市は、1 世帯あたりの人数が、平成 2 年の 3.4 人から平成 26 年は 2.2 人・・・」のところですが、なぜ平成 2 年なのかなと思いました。普通なら 5 年 10 年といった 5 年刻みで表現するか、健康づくり計画策定時の平成 2 年の数字であるならわかるが、きりもよくなく、なんでここに平成 2 年を使ったのかなと思いました。一番数字の格差の大きいところを使ったのであれば結果ありきの数字なので、これが平成 3 年などとなると、後半の文章が変わってくると思うので、平成 2 年について理由があ

るのであれば、説明をつける必要があると読みながら疑問に思いました。以上 3 点です。

阿部会長

ありがとうございます。今のご意見ご指摘に対して、お答えいただかなくてもいいのかな。

廣瀬主査

ありがとうございます。

1 つ目のご提案については、3 つとも納得できるものと感じましたので、持ち帰って検討して、使わせていただきたいと思います。

41 ページの平成 2 年の数字ですが、ご指摘のように、1 世帯あたりの人数が減りました、ということをお伝えしたくてこの数字使いました。説明を追記するなり根拠を提示したり、健康づくり計画 1 次の策定時の数字を使うことで整理したいと思います。

阿部会長

ありがとうございます。読んだときにこの年の理由がわかるようになったほうがもちろんいいですね、唐突に平成 2 年というより。

そのほかご質問・ご意見ありませんか

天野委員

前回の各委員・要望等一覧として修正が書かれていますが、私が 6 ページの行政のミッションで、行政内部の連携をなぜ記載しないのか前回話をしていたのですが、その答えが記載されていなかったの、このまま載せるのであれば仕方が無いと思いますが、そこが気になりました。

前回の発言に似た意見ですが、協議会後に他の委員が出された意見で行政のミッションは分けたほうがいいという意見が書いてありました。

市民との協働や企業などに協力をもらうには、行政の責任を明確にする必要がある、行政の責任を記載した方がいいと発言しましたが、市民や企業に頼る共助というのは、阪神大震災の時にその力を発揮したと思います。あの時は、行政機関も麻痺して行政がこれだけ頑張っているが、それでもできなくて市民を巻き込み様々な共助ができた。行政が足りないところを共助に頼るということにしないと、行政と一緒にやっていこうと市民が理解してくれるのかなと思いました。行政内部の連携など、行政もやることをやった上で頼らないと。1 ページに第 2 次の計画の課題として市民がやりたくなるような取り組みやお互いに健康を支えあう地域社会の重要性を課題と書いているが、これを引き出す行政の努力がまず課題ではないかと思います。

廣瀬主査

少しお待ちいただいていいですか。こちらでご質問の意図をしっかりと汲んでいなかったと思います。

今のご意見は 6 ページの (7) 行政のミッションの中に行政の役割をもっと明確に記載すべきだ

というご意見ということでしょうか。

天野委員

役割というのではなく。

阿部会長

天野委員は、例えば、健康づくりを石狩市全体で進めていくためには、もっと行政のリーダーシップが必要だということですが、端的にいうとそういうことでしょうか。

天野委員

リーダーシップというか、地域の人も自分のできるところは、一緒にやろうというところは良いですが、一緒にやってもらうためには、行政がここまで頑張っているけれども、この部分は協力してほしいということではないと。全部一緒にやりましょうでは、一緒に健康づくりを始めたいとは思えないと感じます。一緒にやりたいという気持ちになる部分が、この文章では伝わらない気がします。

武田課長

天野委員の意見として、会長がおっしゃったように行政側が引っ張っていくようなイメージがあらうかと思いますが、協働の姿で表しているのは、それぞれの立場でそれぞれのことをやっていきましょうと書いているのであって、行政がやらないというわけではなく、メッセージ性を強くして「行政がやるから皆さんもやってくださいね」という作りにはなっていないと、今回の計画は、基本的に、健康づくりはまず個人から始めないといけないという視点にたって、健康づくりを後押ししていく中で、それぞれの役割を明確にしたところでございますので、ただ行政がやるだとかやらないとかではなく、行政が市民だけにやらせる、やってくださいというメッセージではありません。

阿部会長

天野委員どうですか。

天野委員

それぞれの立場でそれぞれのことをやっていきましょうというのは、伝わらない感じがしました。第 1 次の計画の時に、教育委員会との連携が課題として見えたので、市の内部でもきちんと連携しなければならない中で、それをしないと 1 ページに目的として書いている前回の課題を解決することにならないと思います。

飯田委員

前回、協議会が終わったあとに、こういった整理もありますと発言したところが行政のミッシ

ヨンのところでした。

市民の色々な立場の方もミッションを持ちながら、行政もミッションを持ちながら、一緒に協働計画にしましょうというようなコンセプトで作られているということで非常にいい印象を受けました。

現在、何度も協議会を重ねると、具体的な 7 ページ以降の健康ミッションは、枠で囲われているところが行政ミッションであり、その中で、枠で囲まないところは市民に対するミッションになっており、私個人的なイメージは「しましょう」と「します」が枠で囲っていて、ここにいる委員の皆様は、ここは行政ミッションだとわかります。

前回協議会終了後、私がメールで送付したものは「しましょう」はそのままにして、「具体的な取り組み」の後ろに括弧で行政ミッションと記載すれば、市民の方もわかると思います。

この計画を提案した私どもは行政ミッションの具体的なことが入り込んでいるので、その辺りを括弧して行政ミッションとして「何々しましょう」という市民のミッションと行政のミッションということで、説明をつけると分かりやすいのかなと思います。

今回そういった行政ミッションというのは取り込まないで枠の中で具体的な取り組みということに書いていますが、一般の人が見たときに、この「しましょう」とこの枠に入っている「します」というのを読み込んでわかるのかなという気が前の段階でしていました。行政で実施する部分は、具体的にこの枠の中に色々書かれていると思いますので、ここの具体的な取り組みというところに後ろに括弧して行政ミッションと記載するとそれが訴えかけの市民ミッションとなり私たちが取り組まなければならないものがもう少し明確化になる感じはしました。

武田課長

飯田委員が述べられたとおり、行政が主導する形のものが書かれていますが、我々としてはメッセージを伝えた中で、それぞれの立場、協働という中で役割が明確になっておりますので、発信を受けてやりたくなる、つながるようなメッセージ性のあるようわかりやすく読みやすく書きました。

飯田委員

今回、行政の具体的項目がそれぞれ記載されており、市民の方々が読み進めている時に「しましょう」や「具体的取り組み」というところが、これが市民向けのミッションであり自分たちに求められているミッションであるというのと、「します」というこの枠のところが、これが行政でやる対策・政策であるということが理解できるのか疑問に思いました。

廣瀬主査

前回お示した計画の中では、この四角で囲っているミッションの中にも「しましょう」や「お勧めです」のような表現が混在していたので、具体的取り組みについては、こういう対策をしますという表現に変えていますが、具体的取り組みの全てについて、市役所が旗振り役で進めていかなければならないと思っています。あえて行政の取り組みという事にしなかった理由について

は、各施策について例えば、キッズシェフ養成作戦でも、食生活改善推進委員さんや、食育活動している方や、保護者の方など色々な方に参加していただきたいという気持ちがあります。藤女子大学コラボ作戦でも大学と協働することや、石狩バリバリ作戦の中に農協や色々な関連団体と協働したいという気持ちもあります。また、繰り返しの記述になるということの 2 点からあえて分けないで記載しました。もちろん行政が旗振り役で進めていかなければならないと思っております。

飯田委員

(7) の行政ミッション、市民の健康づくりのためにと続く文章が 2 行あり、ここの後ろに括弧して、各ミッションの具体的な取り組みで括弧を閉じることによると、7 ページ以降のミッション 1 や 2 が、これは行政ミッションだということがわかると思います。

武田課長

わかりにくい部分も、こうして意見があるのももう少し検討して、できるだけわかりやすいように、行政のミッションであるというように見せられるように工夫していきたいと思えます。

天野委員

他の部署との連携が上手くいかなかったことが、第二次の課題として浮かび上がったのに、6 ページの行政のミッションのところに、地域や関係団体というような連携協力の前に、市の内部でも、きちんとその取り組みを強化しながらという文言が入ってこない、1 ページの目的として書いている前計画での課題の解決を推進するということにはならないと思うのですが、それを記載しないのですかということ聞いたのですが。

阿部会長

行政内部の連携ということですね。

いかがですか。

武田課長

市としては、連携を強化しながら進めるというのは大前提ですから、あえて明記はしていなかったところですけども、委員の方のご意見を踏まえて、連携をするなり、庁舎の中の取り組みを進めるという表現について検討したいと思います。

阿部会長

表現は少し微調整をするということによろしいですか。

他にご意見をいただく前に、気づいてなかったことがあって、よろしいでしょうか。

23 ページですが、④「どこでも啓発作戦」の文末が無くなっているような気がします。結びの部分で。

廣瀬主査

24 ページの石狩健康づくり応援団の文章のつながりということでわかりづらいかと思います。

阿部会長

ここに繋がっているんですね。

廣瀬主査

私もわかりにくいと思いました。

阿部会長

わかりにくいですね。

私は、次に続かないかのように読んでしまいました。これは仕方ありませんが、わかりやすく各ページの一番上に第 3 章健康推進ミッション（4）など表題が同じものが入っていますよね。続いている場合は続いているように、第 3 章というのがずっと各ページに入り、大きな表題の形で入るよりは、ヘッダーのところに小さく表題が入る方が、続きだということがわかりやすいような気がします。これは、内容的な問題ではなくて、私みたいな早とちりが無くなるかもしれない。

それから、あと 1 点ですが、例えば、第 3 章から始まるところで、健康推進ミッションがあり、1.2.3.4 とカッコの中が変わっていますよね。それで、6 ページのところの第 2 章で、同じミッションという言葉が使われ、市民や、保育園、幼稚園、学校と 7 つに区分けされており、同じミッションが使い分けされてしまうとわかりにくい印象をうけました。第 2 章のところの（1）～（7）までにミッションという言葉を使う必要がないと思います。

要するに、その第 3 章に出てくるミッションを推進するための区分なので、この市民のミッションとか、保育園、幼稚園、学校のミッションというのは区分であり、それを行う組織、場であるわけで、それぞれの場で健康推進ミッションを推進していくということですよね。

廣瀬主査

はい

阿部会長

全然問題無いかもしれませんが、私は疑問に思いました。

廣瀬主査

これをあえて 1 番～7 番に分けなくても、それぞれ明記しなくても良いということではなくてですか。

阿部会長

同じミッションという言葉が、6 ページの第 2 章でのミッションと 7 ページ以降の健康推進ミ

ッション、いわば 2 つの部分で使われているのはわかりやすいかなと感じました。他の委員の皆さんが全然問題ないと思うのであれば変更の必要はありません。

三国委員

私も、その辺に関しては同じ思いをしておりました。ミッションというこのキーワードとなっているところに、2 つの分類がはまっているので、非常に混乱を招くなというのが気になります。そこで、6 ページの部分はそれぞれの実施する、いわゆるコミュニティなり、主体が、何を気をつけていくべきかということと言おうとしているので、そこでの役割や責務、考え、方針、取り組み方、基本の姿勢をここでうたえればいいと思いますし、先ほど、例えば、前回の計画の反省点をそれぞれのセクションでどう考えるのか。というところに行政の連携のことは、まさに、行政はこの計画を進めるにあたって、前回の反省を踏まえて、ここでもってしっかりと連携強化をうたえば、全体を通して、計画のそれは生きてくるのではないかなという風に感じています。

阿部会長

ありがとうございます。

それと、もう 1 つ発言してもよろしいですか。私が今読んでみた限り 5 ページの下から 1 行目「道しるべとします」というところ。ここを読めば、(1) のところは市民でいいと思います。

その他で言うと、1 行上に出てくる説明のところで、市民、子育て・教育機関、職場と列記されているので、できれば(1)～(7)に出てくる文言もそこに出てくる文言と合わせる。

つまり、子育て・教育機関であれば、6 ページの(2)も子育て・教育機関と書いて(保育園、幼稚園、学校)と記載すると、あえてここでミッションという言葉を使わないほうがはっきりわかる。

また、これらの市民、子育て・教育機関、職場、商業施設、地域、関係団体、行政それぞれが健康づくり目標を推進する道しるべとするわけですから、それぞれについて書けばいいので、これらが、全て一体化して石狩市の健康推進ミッションを進めればいいと思います。

廣瀬主査

了解いたしました。

阿部会長

みなさんいかがですか。

天野委員

ここのミッションという部分で思ったのですが、前回の時に、廣瀬主査がずっとミッションという言葉を使っている中で、1 回だけ「チャレンジ」という言葉を使って説明しました。これは実際には、チャレンジという言葉ではないかと思いました。

廣瀬主査

自分ではピンときておりませんが、今改めてご提案いただいて、いい言葉とは思いましたが、その言葉をもってしてわかりやすいか、今、委員長からご提案があったミッションを無くして、それぞれの立場で求められることというところの文言と合わせるのが、すっきりして見やすいのかというのは少し検討させていただければと思います。

阿部会長

個人的に言うと、私はなるべくカタカナは減らしたい。それと、天野委員のおっしゃる気持ちもよくわかるのですが、チャレンジというと、何かにチャレンジをしなければならないというような感じがします。もちろん、しなければならないけれど、挑戦しなくてはならないのかと思われるよりは、もっと、敷居を低くして 1 つ 1 つやっていただく方が、成果は上がるのかなと思います。

色々あるかと思いますが、その他、どうぞ中川委員。

中川（賀）委員

まず 1 つ、単純なことです。2・3 ページのところの体系図ですけれども、2 ページの基本的な方向のところの 1. 2. 3. 4. 5 の文言と、体系図の中の文言がずれているので、その後ろの領域区分も、8 番が少しずれていると思うので、それを合わせたほうがわかりやすいと思います。

次は、今までの話に関係しますが最初、市民がやる気になるという段階があると思います。行政がやる気にさせる、市民をやる気にさせるための活動。というのと、市民が今度、「わかった」って思ったら「じゃあやるぞ」という時にどういう情報が知りたいのか、どういうことが知りたいのかという 2 つのステップが入っていると思います。

今回のアンケートが 2 つの要素がいまいなところがあり、例えば、検診の時は、これは無料であれば受ける。どういうところをやればみんなが受けてくれるのか。というアンケート、これはすごくわかりやすいと思いますね。しかし、タバコをやめたいというところの質問を見ると、やめたいと思う人が、禁煙に取り組むきっかけになるかどうかという意味では、助成金が役に立つかどうかということ。やる気にさせるためのアンケートとしてはいいんだけど、市民の方が「よし、わかった。じゃあやるぞ。」という時に、実際に助成制度を使えば、あるいは、禁煙外来に行けば本当にやめられるかどうか実際にはやめた人が、どういうやり方でやめられたのかっていうのを聞いたほうが効率的だと思います。そこところが、市民の方が「わかった。じゃあどうやったらいいの？」っていう時の、情報提供をもらえないというアンケートの聞き方になっているのかなと思っています。

阿部会長

ありがとうございます。

アンケートについては今後の課題でしょうね。

武田課長

アンケートについては、基本的に政策メニューを出した中で、この政策が本当に必要かどうかの段階、旗振りとして、どのぐらいの皆さんが求めているかの問いかけから始まったところがありそのような形になっております。

中川（賀）委員

出発点として、これが大事だと思います。しかし、今回の第二次という時で「やらなければならない健康づくり」から「やりたくなる健康づくり」というような、2 つのことで、課題を大きく、すごく大事な事に踏み込もうとされているので、たぶんそれで 2 つのことが混在してしまったと思いました。

阿部会長

ありがとうございます。その他、ご意見・ご指摘等ありませんか。

それではご意見が無いようですので、今日出たご意見・ご指摘を可能な限り反映をさせてということでしょうか。それを前提に今申し上げたことを条件としてご了承いただくという形でよろしいでしょうか。

大林副会長

パブリックコメントの実施はいつごろ考えているのでしょうか。

武田課長

1 月 18 日からスタートしたいと考えています。

大林副会長

今日、様々なご意見をいただいて、事務局としてどのくらいの期間で修正案が出来るのでしょうか。

武田課長

今、いただいたご意見を、もう 1 回整理すると、18 日のパブリックコメントの開始が厳しい状況だと思います。しかし、完成時期はタイトになってきますが、直す事については、取り組みたいと考えています。パブリックコメントも経て、直さなければならない部分も当然ございます。

パブリックコメントを経た中で、最終的に市民のご意見を反映して、今回のご意見と合わせて、次の協議会の中にご提示して、もう一度精査していただく。というやり方もあろうかと思っています。

阿部会長

現実的にはどちらでしょうか。

武田課長

全部の体裁を整えてからというよりも、ここで議論をつくして、これでいこうとはっきり言える部分と言えない部分がありますので、パブリックコメントまで全部、修正整理はできないかなと思っています。

大林副会長

会長からご指摘があった 5・6 ページの〈それぞれの領域のミッション〉の部分については、私自身もちょっと違和感がありました。しかし、この計画の大きなポイントは、ここの 5 ページの 2. 協働の姿であり。これをなくして、この計画は成り立たないと思います。したがって、ここの部分については、それぞれの領域の市民の役割や、保育園・幼稚園・学校の役割、そういった文言に変えて、これは残していただきたいなという思いはあります。

それと、先ほどご指摘のあった、具体的な取り組みについては、行政ミッションだろうという部分ですが、一概に、取り組み内容全て読むと、行政のミッションに限らないものの中には一部あります。その辺を変えると、非常に事務局としても苦慮するのではないかなと思いますので、これは具体的な取り組み、という形で素直に読んだほうがいいのかとは思いますが。例えば、11 ページの、●ミッション 4 のところの④「朝食食べた？」声掛け作戦。これは学校、職場、地域での声掛けになりますので、これは行政のミッションに限らないわけです。だから、これを変えてしまうと、全部にそれぞれのミッションの欄に行政ミッションという形で括弧書きが必要となってくると思います。この部分は直さず、先ほどの 2. 協働の姿との整合を図るという意味でも、ここの部分はそのまま残しておいた方がいいかなという意見です。

阿部会長

ありがとうございます。今ご意見いただきましたが、5・6 ページでしょうか。ここは、私はこのミッションを取ればいいかなという意見だったのですが、確かに、何かの役割というのは、わかりやすいし、内容的にはピッタリなのでよろしいのではないのでしょうかと私は思います。

また、それぞれのところの、各ミッションの枠の中が、全て行政のやることとは限らないというのも、その通りなので、行政が担当することが多いですが、全部行政ですと記載するとまた齟齬が起きると思うので、その点についても、変えずに、このままにするというのではないですか。

飯田委員

時間的に、非常にタイトな時間で協議会が進んでいますが、最後であれば文言整理や、技術的な構成で終わるような感じなのかと思っていましたが、むしろ、前回よりも重い宿題が残ったと思っています。

そうすると、時間的に非常に厳しい中で、質問・意見出された方に対してと、会長の方にも話して、これで良いといった形の中で、進んでいった方が時間的にはいいのかなという感じはするのですが。

阿部会長

会長としては、もう 1 回協議会を開く余裕は無いとは思っています。そこで、会長提案ですが、先ほどから何人かの委員の皆さまにご意見いただいておりますが、この点については反映させてほしいということを最低限・最小限に箇条書きのような形で事務方にメールでもいいですし、文書でもいいので提出していただくことが、一番作業は進めやすいと思います。いかがでしょうか。

会長の受け止め方としては、確かに、いろんな意見は出ましたが、大幅に変更しないといけないとは思ってはいません。しかし、そうは言っても、結構気になっている箇所があるように思いますので、もしよろしければ、メールでもいいですよ。

武田課長

明日中にいただいたご意見を 1 週間程で訂正できると思いますので、18 日のパブリックコメントは予定どおり実施できると思います。

阿部会長

そうですね。私の職場では、会議が終了した後、是非、意見を反映させてほしいという方に残っていただいて、明日までに訂正するというものを、もう 1 回確認していただくような手続きで進めていただくという。それをここでご了承いただいて。こういう方向を取れば進められるかなという気はするんですが、皆様いかがでしょうか。

どういうご意見が出たかについては、もう把握していると思いますので、それらの意見について、是非反映させてほしいという方については、事務局にご提案いただくと。そういう形でできれば、そんなに遅れないような形でパブリックコメント等を実施していただけるとと思います。ご出席の委員の皆様いかがですか。若干乱暴ですが。よろしいですか。

〈全員うなづく〉

ありがとうございます。

では、そういう方向で進めさせていただきます。事務局は大変だと思いますが、よろしくお願いします。

では次に、その他となっておりますけれども、事務局より何かございますか？

事務局（木澤主査）

事務局としては、この後のパブリックコメントの実施日程や、その辺のご説明に移ればと思っていたところだったのですが、今、会長がおっしゃられましたように、検討が必要な事項も、本日の協議会で多数出たものですから、基本的には、次回の開催についても、この場でアナウンスするのは難しいのかなといったところもあります。いずれにせよ、検討を要する部分もありますので、次回の開催前までには、いつものように改めて日程調整をさせていただいて、開催のご

案内をさせていただきたいと考えております。事務局からは以上です。

阿部会長

今、事務局からご提案があった、改めて日程調整させていただく方向で進めさせていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。なるべく早くといっても、大変かもしれませんが進めたいと思います。スケジュールについては、今後また、皆様にご連絡が入るかと思いますので、その時に日程調整等、ご協力いただければ幸いです。

それでは、これにて終了したいと思います。ありがとうございました。

平成 28 年 5 月 20 日 議事録確定

石狩市健康づくり推進協議会 会長 阿 部 包